



オーストリア

Lebens- gefühl

[レーベンスゲフュール]

オーストリア流
人生の楽しみ方



オーストリア
ポケットガイド
austria.info

オーストリアは、3,000m級のアルプスからドナウ川、さらには東のパンノニア平原に至るまで、素晴らしい自然景観に溢れています。これら絶景の他にも、この国の特徴の源となっている見どころや歴史、興味深い物語、美食は枚挙にいとまがありません。

しかしながら、いかにアルプスが感動的でも、いかに湖水が透明でも、いかに町が美しくても、結局のところ、オーストリアを特別で素晴

らしい国にしているのは、そこに住む人々であるというのは間違いありません。オーストリア人がユニークで、居心地の良い生活を送っていることや、個性的で独特なユーモアを持っていることはよく知られています。皆様もこの国を訪れ、よい生き方を求めるオーストリア人の精神性にぜひ触れてみてください。

オーストリア政府観光局



オーストリア政府観光局日本事務所は おかげさまで開設 50 周年

今後もオーストリア旅行を
多くの方に楽しんでいただけるよう
邁進してまいります。



P. 3

オーストリアについて

オーストリアの芸術やグルメ、
歴史、地理などをご紹介



P. 43

グラーツについて

グラーツの見どころ
グラーツ市街地図
グラーツの郊外へ



P. 26

ウィーンについて

ウィーンの見どころ
ウィーン市街地図
ウィーンの郊外へ



P. 48

インスブルックについて

インスブルックの見どころ
インスブルック市街地図
インスブルックの郊外へ



P. 36

ザルツブルクについて

ザルツブルクの見どころ
ザルツブルク市街地図
ザルツブルクの郊外へ



P. 51

インフォメーション

旅に役立つ基本情報

発行：オーストリア政府観光局 Austrian National Tourist Office
編集&デザイン：株式会社東美 発行日：2024年4月
記載内容は変更されることがあります。
施設のオープン状況、イベントの開催については各ウェブサイトでご確認ください。
この印刷物は環境に配慮し「FSC® 森林認証紙」を使用しています。





バート・イッシュルの
カイザーヴィラ

欧州文化首都2024： バート・イッシュル／ザルツカンマーグート

バート・イッシュル／ザルツカンマーグートが
「2024年欧州文化首都」に認定されました。
年間を通して芸術、文化、商業、観光に焦点を当て、
150以上のプロジェクトを展開します。

1985年以来、「欧州文化首都」の称号はヨーロッパ各地の都市に与えられてきました。オーストリアではこれまでに2003年にグラーツ、2009年にリンツが指定されました。2024年、オーストリア・アルプスの地方都市では初めてバート・イッシュル／ザルツカンマーグートが「欧州文化首都」となりました。中心となるバート・イッシュルは、オーバーエステライヒ州とシュタイアマルク州の22の市町村と共に、芸術、文化、商業、観光に焦点を当て、地域全体を新たなヨーロッパの文化地域として再構築します。

2024年は年間を通じ150以上のプロジェクトがザルツカンマーグート全域で展開されます。これらのプロジェクトは、芸術パフォーマンスと展示会、講演会・対話などで構成され、持続可能な方法で、歴史と伝統を重んじながら、未来に目を向けています。

中心地、バート・イッシュル

バート・イッシュルはザルツブルクからバスや鉄道で来ることが可能な、アクセスの良い立地にあります。ハプスブルク家の「塩の御料地ザルツカンマーグート」にあるこの地は、皇帝や貴族、ヨハン・シュトラウス2世やヨハネス・ブラームスら文化人の温泉保養地として栄えました。

皇帝フランツ・ヨーゼフ1世と皇妃エリザベートが過ごしたカイザーヴィラ、オペレッタ作曲家フランツ・レハールの名を冠した夏のレハール・フェスティバルなど、温泉&御用邸&音楽祭のあるバート・イッシュルはオーストリアの草津、あるいは那須と呼ぶにふさわしい場所です。美しいお菓子のショーケースが並ぶ皇室御用達の菓子司カフェ・ツァウナーの名物菓子、ツァウナー・シュトレンも有名です。



ハルシュタット



グムンデン陶器

塩と共に歩んできた ザルツカンマーグート

7000年前、ハルシュタットで塩の採掘が始まりました。塩の交易により地域は潤い、豊かさや国際的なネットワークが生まれました。近代になると、文化香る風光明媚なザルツカンマーグートは富裕層や権力者たちを引き寄せ、田舎の湖水地帯は夏の避暑地として人気の旅行先となりました。

ハルシュタットとダツハシュタインの歴史的な文化景観は、ユネスコの世界遺産に登録されています。ザルツカンマーグート地方は、山、湖、川に囲まれ、コンパクトにまとまっており、世界を代表的するような美しい山岳風景を誇っています。また、工業化された北部と、観光や農業に適した南部という世界的に見られる地域分けが、この地方にもはっきりと存在します。欧州文化首都としてバート・イッシュル／ザルツカンマーグートは、ヨーロッパと世界が直面する政治的、文化的、観光・経済的、そして生態学的な課題に地域一丸となってどのように取り組んでいくかを示す実験地域でもあります。

2016年無形文化遺産に登録されたバート・ゴイゼルの手工芸を展示した郷土館、ゴーザウ湖とロープウェイのゴーザウカムバー

ンで行くツヴィーゼルアルム、バート・アウスゼーの水仙祭り(2024年5月30日～6月2日)やアルトアウスゼー岩塩坑、オーストリア家庭の食器戸棚に必ずあるグムンデン陶器の工房を訪ねるのもオススメです。

プロジェクトのガイドライン

2024年欧州文化首都バート・イッシュル／ザルツカンマーグートのプロジェクトは、以下の4つのポイントに重点を置いています。この4つのプログラムで、自分たちの地域、ヨーロッパ、そして全世界の重要なテーマを扱い、未来への新たな推進力を打ち出します。

①力と伝統:ザルツカンマーグートでは伝統が息づいています。伝統は、音楽、工芸、風習、演劇、文学から観光業に至るまで、多岐に及んでいます。伝統を理解するには、それがどのように発展してきたか、どのような権力がこの地域を形成し、新たな行動様式や新たな習慣を形作ってきたかを振り返ることです。

このプロジェクトに関する詳細は
austria.info で紹介しています。
サイト内検索で「欧州文化首都2024」の
キーワードで見つけてください。



②流動する文化：あらゆるものが存在する世界では、明確な文化的アイデンティティの必要性は理解されています。フランスの哲学者フランソワ・ジュリアンは、文化の本質は変化であると述べています。文化は立ち止まることがありません。習慣、伝統、共通言語は一般に誰でも利用できるものですが、型にはまらない芸術形式や持続可能なコンセプトは、革新と未来に立ち向う新たな挑戦です。

③ザルツカンマーグートを共有する - 旅はアート：観光は、19世紀に始まったこのアルプス地方の夏の休暇の伝統から発展したものです。多くの旅行者が憧れるザルツカンマーグート地方では、観光は最も重要なライフラインのひとつです。「ザルツカンマーグートを共有する - 旅はアート」は、観光産業が直面する多様な課題の解決と、質の高いサービスへの未来に向けた可能性を探求します。観光がもたらす副作用を見逃さず、アルプスの景観を保全し、夏と冬の旅行シーズンだけでなく年間を通じて、地域をどのように魅力的にできるか、地域全体で検証を求めていきます。

④地域に基づくグローバル化 - 新たな構築：アルプス田園地帯の南北格差を補い、お互いに補完するような形を模索します。地域の労働市場がクリエイティブな潜在能力で豊かになり、教育水準の高い若者が地域外へ移住するのを抑制するには、ネットワーク化され、グローバルに働くことができる、つまり、モビリティとデジタル化の拡大が必要です。地元産業を再び生業として成り立つようにするための戦略を練り、また、土地利用と合理的な建設計画を組み合わせ、教育や芸術のためのスペースを生み出し、持続可能性を追求することが大切です。魅力的な住みよい場所にするため、若者たちが中心となって活動しています。

イベント

「パート・イッシュル市立博物館の再オープン」、展覧会「塩 - 湖 - 都市」と題するアートプロジェクト、生活の基盤を破壊しない観光をどのように創造するかを問う「観光について」展、エーベンゼーの旧強制収容所のトンネル内で展開される「塩田千春 - 追放され排除されて」展、写真展「日本に向けられたヨーロッパ人の眼／ジャパントゥデイ」、自家用車やレクリエーション交通を可能な限り削減して自転車文化を活性化する音楽イベント「欧州音楽祭とモビリティの日」などの他、2024年は、年間を通じて150以上のプログラムが用意されています。

流動する文化





芸術家の町グミュント(ケルンテン州)にある
ラリッサ・トマセッティのスタジオ

芸術の国 オーストリア

オーストリアは長い歴史を通じて音楽と美術の保護を旗印に掲げ、他国ではほとんど例がないほどの資金と労力を注いできました。

オーストリアの音楽

ヨーロッパの中心に位置するオーストリアは、古来より様々な文化が交錯し、豊かな文化と歴史を育んできました。中でも「音楽」は、この国を紹介する上で最も重要な代名詞です。世界的に名高いウィーン国立歌劇場、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン少年合唱団、ウィーン・フォルクスオーパーなどは、オーストリアの文化使節としても活躍しています。オーストリアの音楽史上「ウィーン古典派」は、偉大な文化遺産の一つに数えられます。そのウィーン古

典派は、ハイドンに始まり、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルトが含まれます。ロマン派を代表するのは、ブラームス、ヴォルフ、ブルックナー、マーラーです。ヨハン・シュトラウスとフランツ・レハールはオペレッタの分野で名を馳せ、そして、シュランメル兄弟の音楽は、ウィーンのワイン居酒屋「ホイリゲ」と切っても切れない関係にあります。毎年各地で開催される数多くの音楽祭や芸術祭には、世界中から音楽ファンが集います。詳しい情報は14～15ページに掲載していますので、ご覧ください。また、ウィーン・フィルのニューイヤークンサートとシェーンブルン宮殿庭園での夏のコンサートは毎年、世界中に中継・放映され、音楽ファンを楽しませてくれます。



ウィーン少年合唱団



オーストリア
について

アウガルテン磁器

オーストリアの 美術コレクション

帝国の時代、ハプスブルク家の人々は芸術品収集に情熱を傾け、幾世紀にわたり世界中から数多くの絵画や美術品の名作が集められました。現在、オーストリア全国にはルーベンスやブリューゲル、ベラスケスなど古典の大家から新進の現代芸術家までの作品を擁する約1,000の美術館・博物館があります。特に人気の高い世紀末芸術の「ユーゲントシュティール」様式を代表するグスタフ・クリムトやエゴン・シーレ、オスカー・ココシュカの絵画は、世界的な名声を博しています。

オーストリアのデザイン

百数十年も前から受け継がれている職人たちの手仕事を現代に再現した「ウィーン・プロダクツ」認定企業の製品をはじめ、オーストリア発のアクセサリやファッションが世界的に注目されています。特に、豊かな文化遺産と若く活力あるクリエイティブシーンの両面を持つウィーンは、まさにクリエイティブ業界の中心地です。また、全国にあるカフェやレストラン、ホテルなどでも、オーストリア独自のデザインを感じることができます。

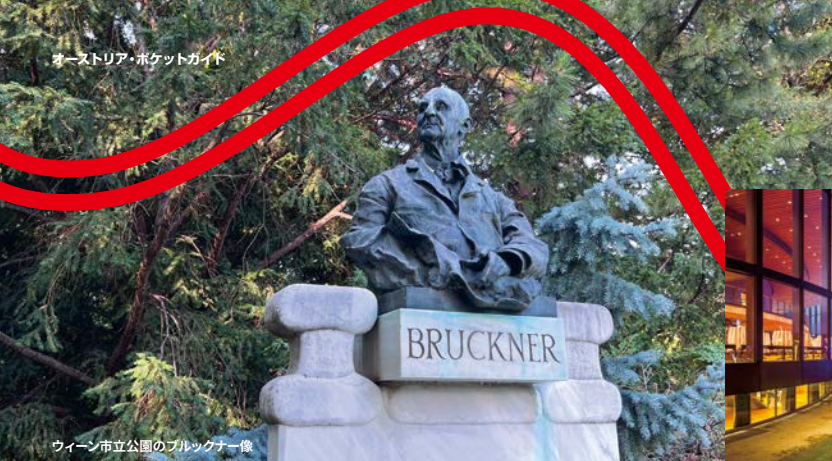
オーストリアならではの逸品

アクセサリをお求めなら、日本でも人気の高い「スワロフスキー」のショップを訪れてみてください。ワッテンスの本社に隣接するクリスタルワールドの他、インスブルック、ウィーンやウィーン空港にショップがあります。

伝統的な品物なら、高級磁器セットの代名詞「アウガルテン」、美しいクリスタルガラス製品の「ロブマイヤー」、テーブルウェアやリネンのお店「シュヴェービッシェ・ユングフラウ」、ユーゲントシュティールの美術工芸品やウィーン・プロダクツ商品を扱う「オーストリア工房」、歴史的なデザインによる家具やインテリアを生産する「フリードリヒ=オットー・シュミット」など。ウィーンのファッションでは、バラエティー豊かな帽子店「ミュールバウアー」、民族衣装に現代的なエレメントを加えた「レナ・ホシェック」、時代を超越したファッションを展開する「ピア・ミア」、アイウェアのお店「シャウシャウ・ブリレ」などが人気です。

ウィーンでちょっとした小物をお探しなら、ナチュラルコスメティックスの「セントチャールズ・コスモテカリー」、モダンなハンドメイド陶器の「マノ・デザイン」、雑貨店「アンナ・シュタイン」など。

地域の伝統工芸品では、かわいい花柄や渦巻き模様のグムンデン陶器、美しい民族衣装のディアンドルや厚手のウールジャケットのワルクヤンカー、レーダーホーゼンなどもオススメです。



ウィーン市立公園のブルックナー像

ブルックナー・イヤー 2024

革新的な作曲へのアプローチでクラシック音楽界に多大な影響を与えたアントン・ブルックナーは、2024年9月4日に生誕200周年を迎えます。2024年は年間を通じてさまざまなイベントが開催されます。

交響曲および宗教音楽の大家であり、オルガン奏者としての才能にも恵まれたアントン・ブルックナーは、19世紀後半で最も重要な作曲家の一人とされています。ブルックナーは、1824年、リンツ郊外のアンスフェルデンで村の学校教師を務める父のもと11人の子供の長男として生まれました。ごく幼い頃から音楽の才能を示し、父親が亡くなった12歳よりサンクト・フローリアン修道院で宗教と音楽の教育を受けることとなります。1845年にはこの修道院の教師に、1848年からはオルガン奏者となり、20代前半で最初のモテットとレクイエムを作曲しています。1855年、ブルックナーはリンツ大聖堂のオルガニストに就任し、職業音楽家となりました。

ブルックナーはリンツで過ごした頃、よくドナウの川岸に立って物思いにふけていたのでしょうか。19世紀の静かで牧歌的な環境でブルックナーが体験した様々な音や

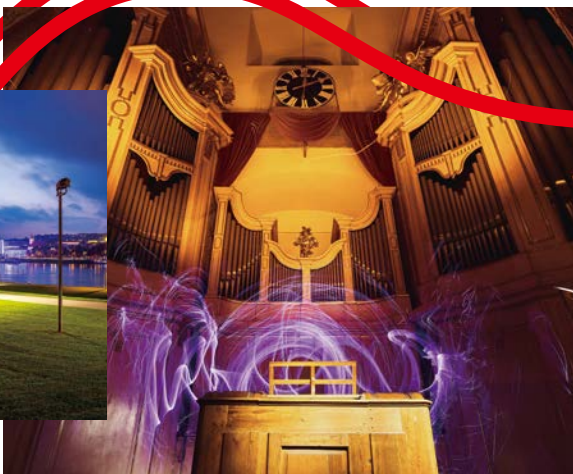
独特な感覚は、彼の作曲活動に活かされたに違いありません。ブルックナーは敬虔なカトリック教徒であり、メランコリックで孤独を好み、(いつも若い娘に夢中になっていたものの)生涯独身で、帝政時代のゴシップ社会を嫌っていました。また、作曲以外の時間は自然の中で過ごしました。創造への畏敬の念なしに、ブルックナーの音楽は考えられません。ドナウ川やブドウの木に覆われた斜面、草原、そして深く悠久の森のすべてが、彼のインスピレーションの源となっていました。

そして、30代になったブルックナーはウィーンを訪れ、作曲の勉強や音楽活動を行い、1868年にはウィーンに移住しました。

ブルックナーは若くしてオルガンの名手として名を馳せ、国内外で聴衆の心を打ちました。しかし、彼が真に情熱を注いだ交響曲の作曲においては、認められるまでには長く厳しい挑戦が続きました。



リンツのブルックナーハウス



サンクト・フローリアン修道院の
ブルックナー・オルガン

晩年になって初めて、同時代の作曲家たちから支持され、数々の栄誉を手にすることができました。彼の作曲に対する独特で説得力のある革新的なアプローチによって、交響曲はさらなる発展を遂げたのです。

今日ブルックナーは、ブラームスやワーグナーと並んで19世紀後半で最も影響力のある作曲家と見なされています。アントン・ブルックナーは、1896年10月11日にウィーンで亡くなりました。現在は、最初の作品を作曲した、サンクト・フローリアン修道院附属教会のオルガンの地下に眠っています。

生誕200年記念行事の ハイライト

展覧会「アントンらしさ」
アルスエレクトロニカ・センター・
リンツ (ディープスペース 8K)

2024年2月から通年
「未来の博物館」としても知られるアルスエレクトロニカ・センター・リンツでは、アントン・ブルックナーの音楽と思想をインタラクティブな音響空間で紹介していきます。

合唱コンサート 「ブルックナーの塩」 エーベンゼーのサリーネン・ オーストリア

2024年6月15日
オーバーエスライヒ州合唱協会に所属する多くの合唱団が、ブルックナー管弦楽団リンツと協演するこのイベントは、エーベンゼー岩塩坑の中で開催されます。塩坑という印象的な舞台上、ブルックナーの音楽をお楽しみください。

フェスティバル 「サンクト・フローリアンの ブルックナー週間」 サンクト・フローリアン修道院

2024年8月15日～24日
サンクト・フローリアンで開催されるブルックナー週間は、アントン・ブルックナーの未完の交響曲第9番とその最後の断片に捧げられます。数々のコンサートやオルガンの夕べのほか、作曲家に焦点を当てたエキサイティングなイベントも開催されます。

その他、記念行事の詳細は
austria.info で紹介しています。
サイト内検索で「ブルックナー・イヤー 2024」の
キーワードで見つけてください。



ウィーン、ハウス・デア・ムジークの
ベートーヴェン・セクション

ベートーヴェン 『交響曲第九番』初演200周年

(音楽評論家 奥田佳道 寄稿文より抜粋)

… 慌ただしさは否めないが、ともかくにも舞台は整った。1824年5月7日、ケルトナートーア劇場でのベートーヴェン・コンサート。曲目は以下の通り。

- ◆序曲「献堂式」ハ長調作品 124
- ◆ミサ・ソレムニス 二長調作品 123からキリエ、クレド、アニュス・デイ
- ◆交響曲第9番二短調作品 125「合唱付」

「献堂式」序曲は、現在のウィーン8区に建つヨーゼフシュタット劇場のオープニングのために1822年に創られたハ長調の音楽。祝典劇の序曲で、ファンファーレの調べもフーガの構築も素晴らしい。粋なオープナーだ。

4月にサンクト・ペテルブルクで初演されたばかりのミサ・ソレムニスも、抜粋での演奏とはいえ、ケルン

トナートーア劇場の客席を喜ばせたことだろう。

そして第9へ。

主な出演者を記す。

指揮 ウィーンの宮廷楽長ミヒヤエル・ウムラウフ (1781~1842)

特別コンサートマスター イグナーツ・シュパンツィク (1776~1830)

※シュパンツィクはリヒノフスキー侯爵邸、ラズモフスキー公爵邸のお抱え奏者で、ベートーヴェンのライフワークだった弦楽四重奏曲をいくつも初演した名ヴァイオリニストにして作曲家の盟友。

ソプラノ ヘンリエッテ・ゾンターク (1806~1854) 18歳

※ゾンタークは前年ケルトナートーア劇場でウェーバーの「オイリアンテ」初演に出演。10代だが、



ベートーヴェンが第9を書いた
バーデン・バイ・ウィーンの
ベートーヴェン・ハウス

ロッシェニ歌いとしても知られていた。

アルト カロリーネ・ウンガー (1803～1877) 20歳

※モーツァルト、ロッシェニ、ドニゼッティのスペシャリスト。父ヨハン・カール・ウンガーは詩人でベートーヴェン、シューベルトの友人。

テノール アントン・ハイツィンガー (1796～1869) 28歳

※ハイツィンガーはウーバーの「オイリアンテ」初演に出演。ウィーンのほかパリでも活躍。

バリトン ヨーゼフ・ザイペルト (1787～1847) 37歳

※ザイペルトはサリエリ門下、作曲家、指揮者としても活躍。

オーケストラ ケルトナートーア劇場の宮廷楽士 40数名および、ウィーン楽友協会の上級演奏会員 (音楽を職業としないディレッタント=技量をもつアマチュア)

管楽器の人数は楽譜指定の約2倍

合唱 ケルトナートーア劇場に属する少年合唱のメンバーを含めて約90名 (諸説あり)

このコーラス、現代のようにオーケストラの後ろに配置されていたのではなく、オーケストラの前に立っていた! その日おかしなことになったのではなく、これが19世紀前半、ウィーンでオラトリオなど

が演奏される際のスタイルだった。コーラスがステージ後方ではなく、指揮者を取り囲むように並んでいた、あるいは指揮者の左右に広がっていた、その「背後」にオーケストラがいたのである。

さて、ベートーヴェンはどこで何をしていたのか。舞台にいたことは分かっている。指揮者ミハエル・ウムラウフの隣に陣取り、楽章が始まるごとに、飛び上がらんばかりに動き、その楽章のテンポを指示していたようだ。

美しい逸話が伝えられている。後にリストのライバルとなる歴史的なピアニスト、ジギスモント・タルベルク/ジギスムント・タルベルク (1812～1871) によれば、第2楽章のスケルツォが終わった後、アルト歌手のウンガーが、大歓声に気がつかなかったベートーヴェンを客席に振り向かせた、と。この感動的な出来事は曲が終わった時だったかも知れない。証言をした未来のピアニストはこのとき12歳だ。記憶違いもあるだろう。

演奏後、聴衆は熱狂し、複数の批評は19世紀初頭の価値基準を何もかも超越した交響曲を目の当たりにし、ただただ驚嘆した。...

全寄稿文は austria.info で、
サイト内検索で
「ベートーヴェン交響曲第9番」の
キーワードで見つけてください。
右のQRコードからも
アクセスできます。





モーツァルト一家の肖像

偉大な音楽家 モーツァルト、シューベルト、シュトラウス

音楽を抜きにしてオーストリアは語れません。
オーストリアゆかりの3人の偉大な音楽家をご存知ですか？
心の琴線を調律して音楽の国オーストリアへお出かけください。

ヴォルフガング・ アマデウス・モーツァルト (1756-1791)

モーツァルトは合計626もの作品を作曲しましたが、彼は当時としても短命で、わずか35才までしか生きられませんでした。モーツァルトは12才になるまでに、既に3つのオペラ作品、6つの交響曲と何百もの作品を作曲しています。その天才的な才能は、当時の人々を感動させただけでなく、モーツァルトの驚異的な作曲に対する人々の感嘆は、今なお生き続けています。

そして、現在に至るまで「モーツァルト・マニア」の熱情は少しも衰えてはいません。実際に、ビジネスの面でも、その他の様々な事においても、モーツァルトほど成功を

収めたミュージシャンはいません。オーストリアのポップスター、ファルコは1986年に米国のポップチャートに『ロック・ミー・アマデウス』という曲で席卷し大ヒットを飛ばしました。ミロス・フォアマン監督は、映画『アマデウス』で、1984年に8つの部門でオスカーを獲得しました。アン・デア・ウィーン劇場では、ミュージカル『モーツァルト』の公演で連日満員という大ヒット興行成績を収めました。彼の肖像画は、オーストリアの1ユーロ硬貨を美しく飾っているだけではなく、有名なチョコレートのモーツァルトクーゲルンにも見られます。この前代未聞の偉大なる音楽の天才にまつわる、数え切れないほどの伝記、小説、伝説が「モーツァルト・ブランド」の観客動員力の凄さを証明しています。



ウィーン市立公園のシューベルト像



ハウス・オブ・シュトラウス

フランツ・シューベルト (1797-1828)

ウィーンに生まれ、ウィーンで生涯を過ごした作曲家フランツ・シューベルトは、歌曲（リート）の王と呼ばれています。彼はあらゆる音楽ジャンルで秀でていましたが、作曲した曲には600を超える歌曲があり、美しいメロディーという点でいえば、この歌曲の王は間違いなく、音楽史上最も創造的な作曲家の一人であることは確かでしょう。シューベルトはゲーテの『魔王』や『糸を紡ぐグレートヒェン』などの詩を楽曲にしました。彼の曲には、これまで誰の楽曲からも得られないような力強い光と闇の謎めいた魅惑が感じられます。作曲家フランツ・リストは、シューベルトのことを「未だかつてない最も詩的な音楽家」と称しました。

シューベルトは、憧れの音楽家であったベートーヴェンが亡くなった翌年の1828年11月、兄のフェルディナントのアパートで亡くなりました。その時、フランツはまだ31才でした。アパートは現在、博物館となっており、本物のシューベルトの遺髪や兄のピアノ、彼が最後に書いた歌曲『鳩の便り』を含むオリジナルの楽譜の複製などを見ることができます。

当時、シューベルトの音楽は「シューベルトティアデー」と呼ばれる親しい仲間が集まるハウスコンサートで演奏されていました。今日のシュヴァルツェンベルクとホーエナムスで行われる「シューベルトティアデー」は、世界最高峰のシューベルト音楽祭として世界中のシューベルトファンを魅了しています。

ヨハン・シュトラウス2世 (1825-1899)

「ワルツ王」と称えられるヨハン・シュトラウス2世は作曲家、バイオリニスト、そして指揮者として、ロンドン、パリ、ベルリン、サンクト・ペテルブルク、ボストン、ニューヨークをはじめとする世界各国の都市で演奏旅行を行い、ウィーンのワルツとオペレッタの真髄を広めました。ウィーン市立公園に立つ金色の像は、ウィーンを訪れる人々にとって絶好の撮影スポットとなっています。彼を代表するワルツ『美しく青きドナウ』は、オーストリアの「第二の国歌」と呼ばれるほどの人気を集めました。そして、オペレッタの中で最も有名な作品は『こうもり』です。『こうもり』は1874年4月5日にアン・デア・ウィーン劇場で初演され、2024年は初演150周年を迎えます。

2023年には、シュトラウス一家の足跡をインターラクティブに辿る新たなミュージアム、ハウス・オブ・シュトラウスがウィーンにオープンしました。ここはワルツ王がかつて舞踏会で演奏したゆかりの地です。レストランも併設。

そして、2025年はヨハン・シュトラウス2世の生誕200周年に当たり、ウィーンでは年間を通して音楽会、ミュージカル、演劇、展覧会など、シュトラウスに関連した多彩なイベントが屋内、屋外で開催されます。



ザルツブルク音楽祭

オーストリアの 主な音楽祭



ザールフェルデン・
ジャズフェスティバル

オーストリアでは年間を通して各地で音楽祭が開かれ、一流の演奏者が腕を競います。地域の文化に触れたり、郷土料理を味わったりするのも楽しみです。

モーツァルト週間(1~2月)：ザルツブルクで誕生日の1月27日を挟んで2週間開催。ウィーン・フィルやモーツァルテウム管弦楽団などが市内複数の会場でモーツァルト作品を中心に演奏します。

ザルツブルク・イースター音楽祭(4月)：1967年にヘルベルト・フォン・カラヤンにより創設。プログラムはオペラ、コンサート、合唱曲、室内楽、若者のためのプロジェクトから成っています。

ウィーン芸術週間(5~6月)：オペラ、コンサート、パフォーミングアーツ、展覧会、国際共同プロジェクトなど多ジャンルの芸術が一堂に会し、街全体がステージに。

ザルツブルク音楽祭(7~8月)：第一次大戦後の荒廃したヨーロッパの人々を和解させることを目的に創設され、現在は世界最高峰の音楽祭の一つ。演劇やオペラも上演され、街全体が祝祭ムードに包まれます。

ライディングのリスト音楽祭(3, 6, 10月)：1811年にブルゲンランド州ライディング村で生まれたフランツ・リストを称える音楽祭。生家(現在は博物館)の隣のコンサートホールで開催。

レハール音楽祭(7~8月)：オペレッタ作曲家フランツ・レハールを記念した祝祭。レハールが別荘を保有し、名誉市民でもあった温泉保養地バート・イッシュルのクアハウスで開催。



ザールフェルデン・ジャズフェスティバル(8月)：アルプスらしい風景が広がるザルツブルク州ザールフェルデンで開催。コングレスセンターや市庁舎前広場周辺をはじめ、周辺の高原や山がステージに。

シュティリアルテ音楽祭(6～7月)：グラーツ歴史地区とエッゲンベルク宮殿をはじめ、シュタイヤマルク州各地で毎夏開催。ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス、シュティリアルテ音楽祭管弦楽団など初期古典音楽の名手が出演。グラーツ市民公園の野外オープニングコンサートは入場無料。

「カリンシアの夏」音楽祭(7～8月)：カリンシアとはケルンテン州の英名。会場となるのは、バロック装飾が美しいオシアツハ修道院、アルバン・ベルク・ホール、フィラッハの会議センター、クラーゲンフルトの大聖堂、ギュンター・ドメニクのアヴァンギャルドなシュタインハウス、城館や教会など。

インスブルック古楽器音楽祭(8月)：かつて音楽の中心地であった古都インスブルックで1976年から続く、初期古典音楽の祭典。旧市街の歴史的建築物群を会場に、オペラやアンサンブル演奏が披露されます。

メルビッシュ湖上音楽祭(7～8月)：ユネスコ世界遺産のノイジードラーゼー湖で繰り広げられる、夏の夜の音楽祭。ミュージカルまたはオペレッタが湖上舞台上で上演されます。上演日はウィーンからシャトルバスが運行。

ブレゲンツ音楽祭(7～8月)：国境の街ブレゲンツで毎夏4週間開催。目玉はボーデン湖に設けられた世界最大規模の水上舞台上で上演されるオペラで、2年ごとに作品が代わります(2024/25年は『魔弾の射手』)。このほか市内各所の会場にて多ジャンルのオペラやコンサートを上演。

サンクト・マルガレーテン野外オペラ(7～8月)と**受難劇**(5～7月)：古代ローマ時代からの採石場を天然の舞台・音響装置に上演される大規模オペラ。作品は毎年代わり、2024年は『アイーダ』。17世紀からワイナリーを所有するエスターハージー財団が主催し、幕間の一杯を楽しみにしている人も。同じ会場で5年ごとにキリスト受難劇が上演されています(次回は2026年)。

グラーフエネック音楽祭(8～9月)：ウィーン近郊、グラーフエネック城の庭園にある野外舞台他でのコンサートがメインですが、城敷地内のレストランで味わうディナーも欠かせない楽しみ。周辺の生産地から直送のワインをご賞味あれ。

シューベルトティアーデ／シュヴァルツェンベルク(6, 8月)、**ホーエネムス**(4, 5, 7, 10月)：シューベルトを記念する音楽祭。オーストリア最西端のフォアアールベルク州で開催されます。



ミルシュテッターゼー湖
(ケルンテン州)



オーストリアの 自然でリフレッシュ

豊かな森の中、
エメラルド色の湖畔で過ごすひととき。
自然は心と体を落ち着かせ、
気分をリフレッシュする
効果をもたらします。

自然の中で時を過ごすことにより、私たちの気持ちは落ちつき、新しい視点が容易に見つかるようになります。どこまでも続く森や牧草地、湖やうねる丘陵など美しく連なるオーストリアの自然景観には、人の心に大きく作用する不思議な力があります。オーストリアには旅人の心のバランスを回復させてくれる素晴らしい自然がたくさんあるのです。



クリスタルのように
澄んだ水

最高の水質で水遊び

アルプスの氷河が溶けて形成された湖が点在するオーストリアは、2021年の欧州環境機関 (EEA) による調査で水浴場 261 ケ所のうち 255 ケ所 (97.7%) が「優良」、国内の全水域の合計 99.2% が「優良」または「良」と評価され、EU 水浴水質ランキング 1 位に輝きました。これは過去数十年間に 500 億ユーロもの投資をして高い水質を保ってきた成果といえるでしょう。オーストリア人が「クリスタル・クリア」と誇る美しく清浄な湖での湖水浴は、日常的なレジャーです。



自然を感じられる
グラーフエネック音楽祭

自然に包まれ音楽に親しむ

室内ホールだけではなく、大自然も公演会場になるのがオーストリアです。

毎年初夏の一夜、シェンブルン宮殿の広い庭園でウィーン・フィルによる「サマーナイト・コンサート」が開催されます。緑薫る外気にあたりながら世界最高レベルの演奏を聴くのは格別の楽しみです。入場はなんと無料。

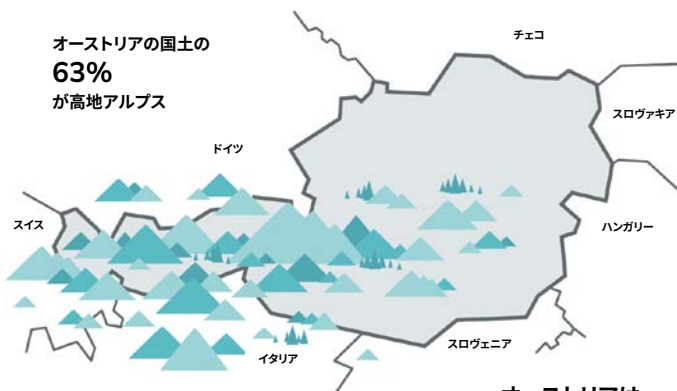
夏恒例の「音楽フィルムフェスティバル」では、ウィーン市庁舎広場に大型スクリーンが設けられ、オーケストラやオペラ、バレエ等の映像が放映されます。屋台で軽食をつまむのも楽しみ。こちらも入場無料です。

また、ウィーン近郊のグラーフエネックでも毎夏野外フェスティバル「グラーフエネック音楽祭」が開かれています。19世紀に建てられたグラーフエネック城と自然のコントラストが美しい音楽祭で、開催日にはウィーンからバスが運行します(15ページ参照)。

グリーンな都市

オーストリアでは都市部のすぐ隣、もしくは内部に自然が広がっています。例えば首都ウィーンは「2020年世界で最も緑の多い都市ランキング」で1位を受賞しました。その市街地の半分は緑地で、数多くの公園があるほか、ウィーンの森の一部は絶滅危惧種の保存公園にも指定されています。公共交通機関の整備やグリーンエネルギーの利用等、持続可能性を高める試みも絶え間なくおこなわれています。

オーストリアの国土の
63%
が高地アルプス



オーストリアは
ヨーロッパに広がる全アルプスの
最も広い29%を占める



ウィーン、ヌスベルクのホイリゲ

オーストリアで “食の愉しみ”を満喫する

人生を謳歌することに長けたオーストリア人の
お気に入りスポットをご紹介します。
また、様々な文化を融合させたオーストリア料理を
いくつかご紹介しましょう。

ぜひ足を運びたい 食のスポットいろいろ

ワイン居酒屋「ホイリゲ」:
ワイナリーに併設された居酒屋のこと。ブドウ畑を眺めながら、自家製ワインと一緒に家庭料理を味わえます。特に野外テラスが開放される時期は快適そのもの。11月の新酒解禁前後の浮き立った雰囲気も格別です。ウィーン、ニーダーエステライヒ州、ブルゲンランド州、シュタイヤマルク州のワイン生産地にあります。

山小屋「アルムヒュッテ」:
アルプスの牧草地(アルム)に建つ山小屋はもともと夏期に山で働く酪農従事者の住まいでしたが、今では多くがホテルやレストランとして使われています。板葺きの小屋の中で、素朴な郷土料理とサワー

種の黒パンを味わってみてください。フォアアールベルク州、チロル州、ザルツブルク州など、オーストリア西部のアルプス地方のハイキングコースに沿って点在します。

カフェ:
全国にありますが、なかでもウィーンのカフェはユネスコ無形文化遺産に認定されているほど有名。その歴史は17世紀末のオスマン軍による第二次ウィーン包囲に遡るといわれています。伝統カフェの典型的な要素は、大理石のテーブル、トーネット・デザインの曲木製の椅子、ボックス席、木製の新聞綴じ、そしてプロフェッショナルなスタッフ。数十種類のコーヒーと四季折々のケーキはもちろん、美味しい料理も楽しめます。



アルムヒュッテでの軽食



ブルゲンランド州の
ワインケラー

地元の居酒屋「バイスル」:

オーストリア人には3つの拠りどころがあります。それは上記のホイリゲとカフェ、そして昔ながらの居酒屋「バイスル」です。典型的なバイスルの設えは、木製バーカウンターと壁の羽目板、そして手書きメニューの黒板。ウィナー・シュニツェルやクネーデル(団子)、グーラッシュといった温かい家庭料理を提供しています。全国にあり。

ソーセージスタンド

「ヴェルステルシュタント」:

広場や停留所など、人の集まる場所にある屋台。マスタードを添えたソーセージとパンを立ったまま頬張ります。特にオススメはチーズが入った「ケーゼクライナー」。ソーセージのレシピはスロヴェニアが起源ですが、それに溶けるチーズを加えた、オーストリア発祥のソウルフードです。日本では珍しいレバーケーゼ(肉と香味野菜を四角く成形して蒸し焼きにした料理)もぜひご賞味あれ。全国にありますが、ウィーンが有名。

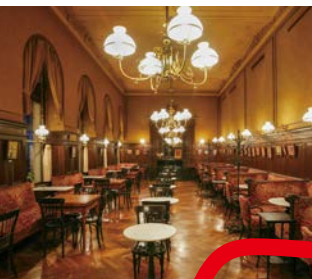
ケラーガッセ・ワイン祭り:

ケラーガッセとはワイン貯蔵庫(ケラー)が並ぶ小路のこと。夏の楽しみであるワイン祭りでは、ケラーを渡り歩いて、それぞれの醸造者が造ったワインと美味しい料理を味わいます。何世紀も続くブドウ畑の絶景が、味を一層引き立ててくれることは言うまでもありません。各地のワイン生産地で行われていますが、特にニーダーエステライヒ州が有名。

シャニガルテン/ピアガーデン:

夏の暑い夜は、レストランやカフェのテラス席が大人気。これらをウィーンでは「シャニガルテン」と呼びます。ニフトコの花から作ったホルンダージュースや、白ワインを水で割ったゲシュプリツターなどで渴きを癒すのが、夏の楽しみです。また、オーストリアはビールの個人消費量が世界第2位。ザルツブルクを中心に、ピアガーデンも多くあります。

ウィーン「カフェ・シュペール」



イチ押し オーストリア料理

ウィナー・シュニッツェル：
ヴェネツィアに端を発する、仔牛肉や豚肉を薄く伸ばしたウィーン風カツレツ。伝説では1857年頃、有名な帝国軍指揮官ラデツキーによりオーストリアに持ち込まれた、と伝えられています。どちらにせよ、皇帝時代のオーストリアで、この料理が今日のシュニッツェルのスタイルとして完成され、「これぞ絶品料理」として有名になったのです。ビールによく合います。

リンツァートルテ：
オーバーエステライヒ州の州都リンツにちなんで名づけられました。世界で初めて文書化されたケーキのレシピとして認識されていることが、このケーキの誇りです。この美味しいケーキを有名にしたのは、フランケン地方出身のヨハン・コンラート・フォーゲルでした。1822年にリンツのケーキ工房の未亡人カテリーナ・クレスの下で働き始め、1823年にカテリーナと結婚しました。フォーゲルは、リ

ンツァートルテを一種の大量生産で製造することを始め、お土産品として定着させることに成功しました。

**マリレンクネーデル
(杏子の団子)：**
マリレンクネーデルは、ドナウ川地域ワッハウ渓谷の真髓であり、また、オーストリア人のオープンさを表しています。つまり、このマリレンクネーデルは、中国のフルーツ(杏子)とインド洋の植物(砂糖)とボヘミアの調理法(団子)からできているのです。そのうえ、「ワッハウ渓谷産アプリコット」はヨーロッパレベルでその品質が保証されており、アプリコットの最高品質に位置付けられています。

ウィナー・シュニッツェル



リンツァートルテ





マスのフィレ 森のキノコ添え：

大きなマスは、水深が深くて酸素の多い湖を棲家としており、国境は行く手を阻むものではありませんでした。マスは、北ロシア、スカンジナビア、バルト三国、そしてオーストリアの湖などに生息しており、真の意味でグローバルに生息している魚類といえるでしょう。かつてケルンテン州のヴァイゼンゼー湖とミルシュテッターゼー湖では、湖の主な生息種でした。オーストリアのグルメはマスを好み、「マスのフィレ 森のキノコ添え」はオーストリアのどこでも食べられる料理です。

マスのフィレ 森のキノコ添え



カイザーシュマレン

カイザーシュマレン：

オーストリア＝ハンガリー二重帝国は、多くの民族が双頭の鷲の下に統一されていました。皇帝フランツ・ヨーゼフ1世は、非常に質素なものを好み、郷土のものに愛着がありました。皇帝は卵、小麦粉、牛乳、砂糖少々から作る柔らかいカイザーシュマレンのような簡単な生地の料理を好んで食しました。しかしこの料理が、単に失敗して崩れてしまったオムレツにルーツを持つのか、カーザー（酪農家）が食卓に出していた栄養満点の軽食が元となっているのか、未だにはっきりしていません。

Google マップ
「オーストリアのオススメ」リスト

地図アプリ「Google マップ」にオススメスポットを集めたリストを作成しました。AIにより情報がリアルタイム更新されるので、経路検索や、施設の営業状況の確認もできます。旅行計画や現地での街歩きにお役立てください。





アイゼンシュタットの
エステルハーザー宮殿



リンツのレントス美術館

個性あふれる 9つの州

オーストリアは9つの連邦州からなる共和国です。
各州には独特の気候風土と文化があります。

ウィーン

オーストリアの首都。ハプスブルク帝国640年の古都であり、芸術の都。その一方でモダンな建築物も多く、新しいカルチャーも発信しています。市の周縁に約1,350km²に渡って広がるウィーンの森は、人々の憩いの場であるとともに良質のワインの生産地です(26ページ参照)。

ニーダーエステライヒ州

ウィーンを囲む州。州東側の丘陵地帯は国内随一のワイン産地で、北部は森林で覆われています。バロック様式の修道院が建つメルクとクレムス間のドナウ川流域は「ワッハウ渓谷」と呼ばれる人気の景勝地で、ユネスコ世界遺産に登録されています。州都はサンクト・ペルテン。

ブルゲンランド州

オーストリアの東端、ハンガリーとの国境の州。世界遺産のノイジードラーゼー湖を有し、野鳥の宝庫ゼーヴィンケル国立公園、コウノトリがコロニーを作るルストなどがあります。夏は湖畔の町メルピッシュで湖上音楽祭が、採石場サンクト・マルガレーテンで野外オペラが上演されます。良質なワインの産地としても有名。州都はハイドンとエステルハーザー侯爵家ゆかりの街アイゼンシュタット。

シュタイヤマルク州

オーストリア南部、「緑の州」と呼ばれるほど豊かな緑地に牧歌的な村が点在しています。スロヴェニア国境の南シュタイヤマルク地域はワイン産地で、ブッシュェンシャックと呼ばれる生産者の直営店を訪れるのがオススメです。パート・アウスゼー周辺はザルツカンマーグート(湖水地帯)の一部で、アルプスらしい山と湖の景観が広がります。州都はグラーツ(43ページ参照)。



クラゲンフルトの
州庁舎



レッヒのスキー場

ザルツブルク州

生物多様性が豊かなホーエ・タウエルン国立公園を含むアルプス地方。その美しさは、映画『サウンド・オブ・ミュージック』で世界的に有名になりました。地名の由来でもある岩塩鉱や、『きよしこの夜』誕生の地オーベルンドルフ、世界最大の氷穴があるヴェルフェンも見どころです。州都はザルツブルク(36ページ参照)。

ケルンテン州

オーストリア最南部の州。ヴェルターゼー湖、オシアッハゼー湖、ミルシュテッターゼー湖をはじめとした大小の美しい湖があり、水泳や水上スポーツが盛んです。州の最北端にはオーストリア最高峰のグロースグロックナー山が秀麗な姿を見せています。州都のクラゲンフルトは、バロックとユーゲントシュティールの建物が建ち並び、小規模ながら芸術と文化の薫り高い見どころが満載。

オーバーエステライヒ州

オーバーエステライヒ州随一の観光地は、ザルツカンマーグートと呼ばれる湖水地帯。特に中心都市であるバート・イッシェルは、ハプスブルク家御用達の温泉保養地として発展しました。州の北側に位置するミュールフィアテルの丘陵地帯は、チェコとの国境を形成しています。州都のリンツは音楽家ブルックナーゆかりの街。デジタルアートの中心地としても世界的に有名。

チロル州

牧歌的な山の風景で知られるチロル州。インタール溪谷に沿って、インスブルック、ハル、ラッテンベルク、クーフシュタインといった魅力的な町が並びます。また、ツィラータール、シュトゥーバイタール、エッツタール、サンクト・アントン、ゼーフェルトといった山岳リゾートには、冬はスキー、夏はハイキングを楽しみに国内外から観光客が訪れます。州都はインスブルック(48ページ参照)。

フォアアールベルク州

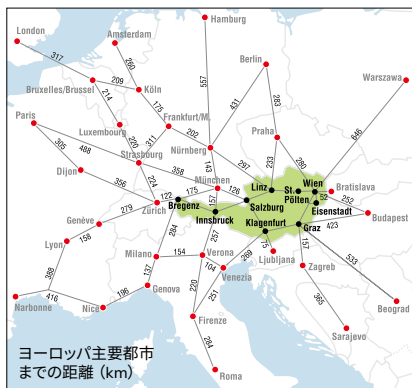
オーストリア最西端の州。面積は小さいながら、シルヴレッタの氷河からライン溪谷の平地に至る、変化に富んだ自然が特徴です。州都ブレゲンツでは毎夏「ブレゲンツ音楽祭」が開催され、湖上舞台で壮大なオペラを鑑賞できます。アールベルク地方はアルペンスキーの発祥地。世界中の王族やセレブが訪れる高級リゾートです。なかでもレッヒは「欧州で最も美しい村」に選ばれました。

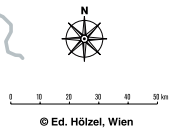
オーストリア地図 位置と距離

オーストリアは中央ヨーロッパの南部に位置し、国土の総面積は83,858平方キロメートル、人口は約920万人。公用語はドイツ語ですが、英語もよく通じます。



- アウトバーン
- - - - - 建設中のアウトバーン
- 高速道路
- - - - - 建設中の高速道路
- 幹線道路
- 主要道路
- その他道路
- 鉄道
- ✈ 国際空港
- 国境
- 州境



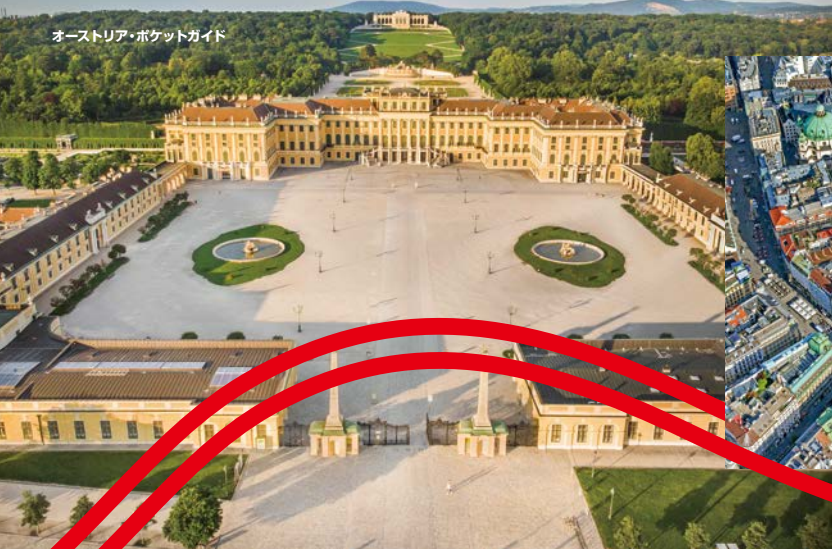


9つの州と州都



州都間の距離

(km)	ブレゲンツ	アイゼンシュタット	グラーツ	インスブルック	クラゲンフルト	リンツ	ザルツブルク	サント・ベルテン	ウィーン
ブレゲンツ	-	769	700	187	575	547	429	656	720
アイゼンシュタット	769	-	183	582	307	232	347	113	55
グラーツ	700	183	-	513	133	215	255	190	210
インスブルック	187	582	513	-	377	360	242	469	533
クラゲンフルト	575	307	133	377	-	257	212	339	335
リンツ	547	232	215	360	257	-	118	121	185
ザルツブルク	429	347	255	242	212	118	-	230	294
サント・ベルテン	656	113	190	469	339	121	230	-	65
ウィーン	720	55	210	533	335	185	294	65	-



シェーンブルン宮殿

ウィーンの見どころ

華麗な宮廷文化が息づく、芸術の都ウィーン。
古くよりヨーロッパの東西と南部を結ぶ十字路として栄えました。

古代ローマ人の入植以来、二千年の歴史を持つウィーン。ハプスブルク帝国の都として栄華を誇り、重厚な歴史建築や音楽・美術が見どころです。最近では現代建築やデザイン、そしてサステナビリティの発信地としても注目されています。

シュテファン大聖堂

鮮やかな屋根が映えるウィーンのシンボル。南北2つの塔からは街が一望にできます。石造りの説教壇や祭壇を彩る絵画などの内部装飾は必見。カタコンベ（地下墓地）には歴代皇帝の臓器が安置されています。

[MAP] P.33 B-3

シェーンブルン宮殿

ユネスコ世界遺産に指定されたハプスブルク家の夏の宮殿で、マリア・テレジア・イエローの外観が印象的です。ロココ様式で統一された1,441の部屋のうち40室が公開中。ウィーン会議で舞踏会場として使用された大広間、6歳のモーツァルトが御前演奏した鏡の間は必見です。

宮殿の後方に広がる面積1.7km²の庭園には、シェーンブルン（美しい泉）の名前の由来となった泉、1752年設立の世界最古の動物園、大温室パルメンハウス、ネプチューンの噴水、迷路庭園、日本庭園があります。ギリシャ神殿風のグロリエッタはカフェとして営業しており、宮廷馬車博物館には歴代の皇族が乗った豪華な馬車が展示されています。

www.schoenbrunn.at



王宮庭園

ベルヴェデーレ宮殿

対トルコ戦争の時代、ハプスブルク軍の将軍だったサヴォイ家のオイゲン公(1663~1736)の夏の離宮であり、ヨハン・ルーカス・フォン・ヒルデブラント設計によるバロック宮殿の最高傑作。式典用の上宮と居住用の下宮が、緩やかに傾斜したバロック庭園で結ばれています。

現在は美術館で、上宮は『接吻』を筆頭とする世界最大のクリムト作品群が目玉です。下宮は特別展の会場となるほか、バロック美術の名作が展示されています。

MAP P.33 D-3,4

www.belvedere.at

リング通り

19世紀半ば、ウィーンを取り囲んでいた城壁を皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の命により取り壊し、環状道路が造られました。この通りに沿って公園、国会議事堂、市庁舎、大学、ブルク劇場、国立歌劇場、美術史／自然史博物館、王宮といった主要施設が並んでいます。

MAP P.32,33 A,B,C-2,3,4

公園と庭園

市立公園(シュタットパーク)は、1862年に開園したウィーン初の市立公園です。園内にはヨハン・シュトラウスやシューベルト、ブルックナーの像があり、クアサロンではコンサート&ディナーが楽しめます。

MAP P.33 C-3,4

市民庭園(フォルクスガルテン)は、美しいバラ園が見どころ。皇妃エリザベト像もあります。

MAP P.32 B-2

王宮庭園(ブルクガルテン)は、モーツァルト像が有名な英国式庭園。皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の個人所有でしたが、死後3年後の1919年に一般開放されました。フリードリッヒ・オーマン設計による世紀末様式の温室(パルメンハウス)には、南国の蝶が飛び交う蝶の家と、植栽が施され緑あふれるカフェ・レストランがあります。

MAP P.32 C-2



スペイン式宮廷馬術学校



ホーフブルク王宮

ハプスブルク家の居城。増改築を繰り返したため、さまざまな時代の建築様式が共存しています。旧王宮では皇帝の住居を公開し、一部は皇妃エリザベート（シシィ）の博物館となっているほか、銀器コレクションも見事です。新王宮のウィーン世界博物館と、国立図書館プルンクザールも見応えたっぷり。

王宮宝物館には、聖遺物、ミサ用の祭服や祭具、10世紀に制作された神聖ローマ帝国の帝冠と権標、オーストリア皇帝の冠、ブルグント公国の財宝、金羊毛皮騎士団の財宝といった、ハプスブルク帝国の栄華を象徴する品々が展示されています。

[MAP] P.32 C-2

www.hofburg-wien.at

スペイン式宮廷馬術学校

リピッツァー種という白馬が披露する、古典馬術の殿堂。美しいバロック様式のホールは、巨匠フィッシャー・フォン・エルラッハの設計により、皇帝カール6世時代の1729～35年に建てられました。16～17世紀にかけて世界帝国を築いたハプスブルク家は、オーストリア・ハプスブルク家とスペイン・ハプスブルク家に分かれました。イベリア半島から多くのアンダルシア馬が導入され、これをもと

に生まれたのがリピッツァー種です。「スペイン」の名はこの史実に由来します。厩宮（シュタールブルク）にはリピッツァー博物館があります。

[MAP] P.32 C-2 www.srs.at

市庁舎（ラートハウス）

1872年～1883年に造られたネオゴシック建築。前の広場では、夏には音楽フィルムフェスティバル、11月中旬～12月26日はクリスマスマーケットが開催され、11～3月はスケートリンクが設置されます。

[MAP] P.32 B-2

国会議事堂（パラメント）

民主主義を象徴する古代ギリシャ風の建物で、正面には知恵の女神アテネが。1873年～1883年にウィーン楽友協会の建物も手掛けたハンセンの設計で建造。5年かけて大改修され2023年に再オープン。無料のガイドツアーあり。

[MAP] P.32 B-2

ケルトナー通り

シュテファン大聖堂から国立歌劇場に延びる歩行者天国。高級ブランドやアパレルショップ、カフェが並ぶ、ウィーン随一の繁華街です。

[MAP] P.33 C-3



ウィーン市庁舎の
音楽フィルムフェスティバル

ウィーン国立歌劇場
「オペラ座舞踏会」



ウィーンについて

ウィーン国立歌劇場

1861年～1869年に宮廷オペラ劇場として建てられ、モーツァルト『ドン・ジョヴァンニ』でこけら落とし。1945年に戦災を被りましたが修復され、1955年カール・ベームが指揮するベートーヴェンの『フィデリオ』で再開館しました。日本語バックステージツアーあり。

MAP P.33 C-3

www.wiener-staatsoper.at

が。歩き疲れたら、美しい館内カフェで休憩を。

自然史博物館には先史時代からの動物、植物、鉱物やハルシュタット文化時代の出土品があり、特に約2万5千年前の『ヴィレンドルフのヴィーナス』、マリア・テレジアの『宝石の花束』が有名です。

MAP P.32 C-2

www.khm.at, www.nhm.at

プラーター

ドナウ運河とドナウ本流の間に広がるプラーターは、遊園地とスポーツ施設がある広大な緑地。ウィーンのシンボルである大観覧車もあります。

MAP P.33 A-4

カール教会

マリア・テレジアの父カール6世が、ペストの終息を祈願して1716年～1739年に建立した教会。バロック建築の巨匠エルラッハ父子の設計。ウィーン市史を網羅するウィーン・ミュージアム・カールスプラッツが隣接しています。

MAP P.33 D-3

ドナウ運河

シュヴェーデンプラッツのドナウ運河には定期観光船発着場やカフェ、レストランがあり、常に賑わっています。

MAP P.33 A-3, B-3, C-4

美術史博物館と 自然史博物館

美術史博物館は、ハプスブルク家が収集した約40万点の芸術品を所蔵。コレクションはルーベンス、レンブラント、デューラー、ティツィアーノ、ベラスケスと広範で、中でも『農民の婚礼』をはじめとするブリュゲルのコレクションは世界一です。クンストカンマー（美術工芸館）には2,200点もの名品珍品

マリアヒルファー通り

ウィーンっ子に人気の約2km（ミュージアム通り／ゲトライデマルクト～西駅間）のショッピング街。デパートもあります。地下鉄U3で

MAP P.32 D-1, C-2



ウィーン美術史博物館の
潇洒なエントランス

ウィーン王宮宝物館の
オーストリア皇帝冠



ハプスブルク家コレクションの宝庫 ウィーン美術史博物館

ウィーン自然史博物館と対を成してリング通り沿いに建つ、壮麗なウィーン美術史博物館、通称KHMは、ハプスブルク家の歴代皇帝が世界中から蒐集した膨大なコレクションを収蔵するため、皇帝フランツ・ヨーゼフ1世の命により1891年に完成しました。古代エジプト・ギリシャから18世紀後半まで約5千年にわたる美術品は、ハプスブルク家の庇護と目利きを物語っています。絵画では、ルーベンス、レンブラント、ラファエロ、フェルメール、ベラスケス、ティツァーノ、デューラーの名作を始め、ブリュゲルの世界最大のコレクションが並びます。

財宝・珍品コレクションを展示する美術工芸収集室（クンストカンマー）では、ベンヴェヌート・チェリ

一二の金の塩入れ『サリエラ』をはじめ、見事なブロンズ像、繊細で奇妙な象牙細工、貴重な時計、複雑なオートマタ、奇妙な科学機器、貴重なゲームなど、約2,200の美術・工芸品が展示されています。若きグスタフ・クリムトが共同制作した一連の壁画が並ぶ堂々たる階段の間と、「世界一美しいカフェ」と称されるクーボラカフェも見逃せません。

また、ウィーン美術史博物館は本館以外に、ウィーン王宮宝物館、新王宮内の各博物館、演劇博物館、シェーンブルン宮殿にあるウィーン宮廷馬車博物館、インスブルックのアンプラス城の運営も担っています。

ウィーン美術史博物館
Kunsthistorisches Museum Wien
Maria-Theresien-Platz
A-1010 Wien
booking.tourist@khm.at
www.khm.at



ピーテル・ブリュゲル『バベルの塔』



エゴン・シーレ
『ほおずきの実のある自画像』

屋上の新たな文化施設
MQ リベッレ



世界最大のシーレ・コレクション レオポルド美術館



創設者ルドルフ・レオポルドが50年以上の歳月をかけて蒐集したプライベート・コレクションを展示するレオポルド美術館は、ウィーン中心部にある美術館群MQにあり、19世紀末から20世紀初頭のモダニズム初期の最も卓越したコレクションを所蔵しています。中心をなすのは世界最大のエゴン・シーレのコレクションです。『ほおずきの実のある自画像』『モルダウ河畔のクルマウ』『母と子』『悲しみの女』といった、若き天才の内面を表現した傑作が並びます。シーレが師と仰いだ巨匠グスタフ・クリムトの絵画も充実しており、傑作とされる『死と生』や『アッター湖畔』などがあります。これらは「1900年代のウィーン」というテーマのもと、常設展示されています。

コロマン・モーザーとヨーゼフ・ホフマンの「芸術と工芸」の作品群では、この時代のデザインの先進性がわかります。

また、表現主義のパイオニア、リヒャルト・ゲルストルとオスカー・ココシュカの作品のほか、1918年から1938年のオーストリア・アートに関する膨大なコレクションを鑑賞することができます。

屋上スペース、MQリベッレ（トンボの意）からはウィーン美術史博物館、自然史博物館の双子建築をはじめ、素晴らしい眺望が楽しめます（無料）。

グスタフ・クリムト『死と生』



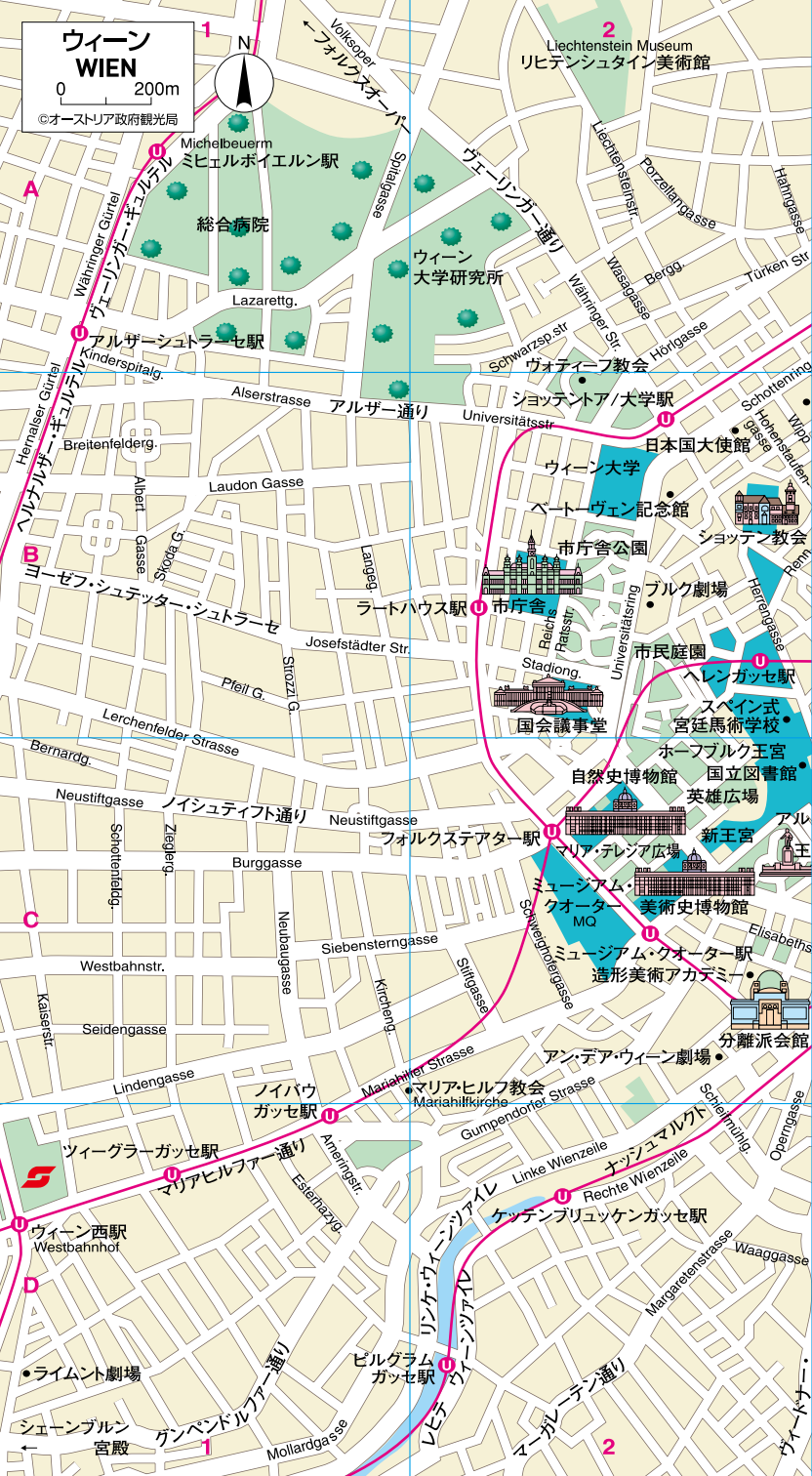
レオポルド美術館
Leopold Museum
MuseumsQuartier,
Museumsplatz 1,
A-1010 Wien
tourismus@leopoldmuseum.org
www.leopoldmuseum.org

© (from top to bottom): Leopold Museum Wien, Leopold Museum Wien/Alexander Eugen Koller, Katharina Kobberger

ウィーン WIEN

0 200m

©オーストリア政府観光局





ワッハウ渓谷の景勝地
シュピッツ

ウィーンの郊外へ

丘陵にブドウ畑が広がるウィーンの森、
ドナウ川クルーズのハイライト、ワッハウ渓谷へ。

ウィーンの森

ウィーンの北・西・南を取り巻くウィーンの森は、アルプス山脈の最東端であり、市街地の3倍ほどの面積(約1,350km²)があります。丘陵では日当たりを生かして良質なワインが生産されており、ベートーヴェンやシューベルトも自然の中での一杯を楽しみに足を運びました。グリーンツィングはホイリゲ(ワイン居酒屋)が並ぶワイン産地の町。シュランメル音楽を聴きながら新酒を味わうのは格別の楽しみです。ハイリゲンシュタットはベートーヴェンゆかりの地。『田園』の着想を得た散歩道や、現在は博物館やホイリゲになっている住居などが点在します。

アクセス：グリーンツィングへはショッテントアから市電38で終点まで約30分。ハイリゲンシュタットのベートーヴェン博物館へは、ショッテントアから市電37を終点で降り、徒歩5分。

ワッハウ渓谷

ドイツの黒い森を起点に、オーストリアや東欧を抜け黒海に注ぐドナウ川。全長約2,800kmで最も風光明媚といわれる世界遺産のワッハウ渓谷を存分に楽しむなら、ドナウ川クルーズがオススメです。まずはウィーン中央駅からメルク駅まで準急列車で約1時間。壮大なメルク修道院を見学してから船へ。丘陵のブドウ畑や壮麗な古城などが目の前に迫り、川沿いにはリースリングという白ワインの産地ヴァイセンキルヒェンやシュピッツ、中世都市デュルンシュタインなど見どころがたくさん。終点のクレムスの対岸にはゲットヴァイク修道院がそびえています。

クルーズ船の運航期間：4月上旬～10月末。それ以外の期間は、メルクやデュルンシュタイン、クレムスの町々を列車で訪ねます。ウィーンからは便利な観光バスも出ています。

オーストリアのクリスマス

アドヴェント（待降節）はクリスマス前の4週間の期間のことで、オーストリアでは1年で最も平和な時期としても知られています。クッキーを焼いたり、クリスマスのデコレーションを楽しんだり、アドヴェントの歌を合唱したりと、クリスマスまでの数週間、家族で愛すべき伝統を共有し、昔ながらの風習が守られている時期です。



グラーツのクリスマスマーケット

ウィーンの冬の日を楽しむ

ウィーンでは多くの広場でクリスマス市が開かれる中、市庁舎前広場で一番賑やかなマーケットとイベントが繰り広げられます。

また、ウィーンの郊外で開催されるクリスマスマーケットも趣があります。公園や庭園、別荘の前などの牧歌的な場所は、街の中心部から離れていても、冬にはクリスマスらしい雰囲気醸し出します。

雪に輝くモーツァルトの街、ザルツブルク

静かな路地には平和が訪れ、妖精の光が旧市街を華やかに彩り、レストランやカフェのライトアップされた窓が訪れる人を温かく迎えてくれます。

ザルツブルクではレジデンツ広場、ミラベル広場などのクリスマス市の他、ヘルブルン宮殿のマーケットがロマンチックでオススメです。ザルツブルク近郊のオーベルンドルフはクリスマスキャロル「きよし

この夜」が生まれた村です。聖歌の誕生した起源がここにあります。そして平和の歌は世界に広がっていきました。

アドヴェントの魔法に包まれたグラーツ

クリスマス時期のグラーツの雰囲気は、旧市街の豪華な装飾を施した様々な通りによく表れています。最も有名なヘレンガッセ通りでは、イルミネーションで飾られたクリスマスツリーが逆さに吊るされていて、人目を引くクリスマスの風物詩となっています。お店からはシナモンやバニラ、ローストアーモンドなどのクリスマスの香りが漂い、周囲の屋根には雪がそっと降り積もっています。一年で最も静かな時期にしか存在しない魔法がこの街を包み込んでいるのです。また、市庁舎に映し出されるアドヴェントカレンダーと広場のクリスマスツリーもステキです。

ザルツァッハ川と
ザルツブルクの街並み

ザルツブルクの 見どころ



モーツァルトの生家

モーツァルトの生誕地、『サウンド・オブ・ミュージック』の舞台。
ユネスコ世界文化遺産のバロック都市。

ホーエンザルツブルク城

メンヒスベルク山の上にそびえる町のシンボル。中欧で最も保存状態のよい中世城塞建築の一つです。豪華な大司教の居間や黄金の間は圧巻。「ザルツブルクの雄牛」と呼ばれる大オルガンがあり、モーツァルトの城塞コンサートも開催されています。博物館には昔の武器や工芸品などを展示（日本語音声ガイドあり）。テラスからはアルプスの山並みと市街のパノラマが楽しめます。

MAP P.37 B-2

www.festung-salzburg.at

メンヒスベルク

ザルツァッハ川沿いに南西に伸びる山。春にはブナやカエデ、菩提樹、檜が新緑の輝きを放ち、秋は燃えるような紅葉が見事です。登頂ルートはいくつかありますが、最も快適な方法は山の中を通るメン

ヒスベルク・エレベーター。山頂にはザルツブルク現代美術館があります。素晴らしい眺め的高级レストラン「M 32」や「ホテル・シュロス・メンヒシュタイン」、ソーセージ屋台「ビュッフェ・ツア・リヒターヘーエ」、伝統オーストリア料理店「シュタットアルム」など、食事処も充実しています。

MAP P.37 A-1, B-1,2

ミラベル庭園／宮殿

『ドレミの歌』のロケ地で有名な庭園からは、ホーエンザルツブルク城と大聖堂が一望に。ギリシャ神話を題材にした石像、噴水、四季の花々が人々を魅了します。園内のほぼ中央に位置するミラベル宮殿は、大司教ヴォルフ・ディートリッヒが愛人サロメ・アルトのために建てた別荘。内部の大理石の間は、室内楽コンサートや結婚式などの会場として使用されています。

MAP P.37 A-1

モーツァルトの生家

1756年、旧市街一番の目抜き通りであるゲトライデガッセ通り9番地で、モーツァルトは誕生しました。建物は現在記念館になっており、神童が使用していた子ども用バイオリン、コンサート用バイオリン、ピアノ、一家の肖像画と書簡などが展示されています。

MAP P.37 B-2

www.mozarteum.at

ゲトライデガッセ通り

15世紀建築の市庁舎に続く通りで、ザルツブルク随一の観光スポット。頭上には扱っている商品を模した鉄細工の看板がズラリ。シヨップやレストランがひしめき、常に賑わっています。

MAP P.37 B-1,2

© Left (from top to bottom): Tourismus Salzburg GmbH/Guenter Breitegger, Bryan Reinhardt, Right (from left to right): Tourismus Salzburg GmbH/Markus Kohlmayr, Tourismus Salzburg GmbH



メンヒスベルク



ゲトライデガッセ通り





ドームのパイプオルガン

レジデンツ広場の大噴水



ドーム (大聖堂)

バロック様式とローマ風の建築様式が調和した大聖堂。大司教マルクス・シティクスのもとで建築家ソーラーリによって1614年に着工、1628年に完成しました。モーツァルトの洗礼とカラヤンの告別式が行われたことでも知られます。約6千本のパイプを持つパイプオルガンとドーム博物館が見どころ。正面の広場では毎夏、ザルツブルク音楽祭の恒例演目『イエーダーマン』が上演されます。

MAP P.37 B-2

ザルツブルクの ドームクォーター

ドーム (大聖堂)、サンクト・ペーター修道院、レジデンツなどを含む旧市街の主要建築物は、17世紀に造られた回廊で結ばれ、ドームクォーターと呼ばれる巡回コースとなっています。

このコースを一巡りすれば、バロック様式の豪華な部屋と2千点もの美術品を堪能できます。

通行時間：火曜日を除き、毎日午前10時～午後5時、7月～8月は毎日

MAP P.37 B-2

www.domquartier.at

サンクト・ペーター修道院

国内最古のベネディクト派修道院。映画『サウンド・オブ・ミュージック』にも登場しました。修道院の装飾品は、宗教芸術として価値の高いものばかり。裏手の墓地には、モーツァルトの姉のナンネルや旧友ミヒャエル・ハイドンが眠っています。初期キリスト教徒の祈禱のための洞窟「カタコンベ」は必見です。

MAP P.37 B-2

レジデンツ

歴代大司教の宮殿で、豪華な内部はガイドツアーで見学できます。レジデンツ広場のシンボルは美しいバロック様式の大噴水。広場では9月のルーペルト祭やクリスマス市などの催し物が行われます。

MAP P.37 B-2

www.residenz-salzburg.at

グロッケンシュピール

1702年に造られた、レジデンツの反対側にある新レジデンツの鐘楼。音程の異なる35個の鐘が毎日7時、11時、18時に鳴り響きます。

MAP P.37 B-2



ヘルブルン宮殿

マカルト広場の モーザルト住居

モーザルトが故郷ザルツブルクを捨てウィーンに向かうまでの7年間(1773年～1780年)を過ごした家で、現在は博物館。日本語解説あり。

MAP P.37 A-2

祝祭劇場

大司教の厩舎を1926～28年に建築家クレメンス・ホルツマイスターが祝祭小劇場に改築、その後1956～60年にかけて大劇場が増築されました。モーザルト生誕250周年の2006年に小劇場が改築され、「ハウス・フュア・モーザルト(モーザルト劇場)」へと生まれ変わりました。夏のザルツブルク音楽祭のメイン会場であり、映画『サウンド・オブ・ミュージック』のロケ地としても有名。内部のガイドツアー(約1時間)あり。

MAP P.37 B-1

www.salzburgfestival.at

マリオネット劇場

モーザルトやシュトラウス等のオペラや『くるみ割り人形』『サウンド・オブ・ミュージック』などが演じられる、人形劇専門の劇場。

MAP P.37 A-2

www.marionetten.at

モーザルトテウム

1914年設立の国際財団法人で、音楽院とコンサートホールがあり、サマーアカデミーが開催されています。庭園にある「魔笛の家」は1791年にモーザルトが『魔笛』を完成させた家で、ウィーンから移築されました。内部見学は不可。

MAP P.37 A-2

www.mozarteum.at

ヘルブルン宮殿

旧市街から南へ7km、いたずら好きの大司教マルクス・シティクスが造らせた宮殿。バロック庭園には仕掛け噴水があちらこちらに隠してあり、人々を驚かせます。水力で動くミニ人形劇場も見どころ。4～11月オープン。冬期休業中に開催されるクリスマス市がオススメ。アクセス：市内からバス25番で20分 www.hellbrunn.at

レッドブル・ハンガー7

ザルツブルクに本社を置くレッドブルのミュージアムで、ザルツブルク空港内に位置。建物内部には、レッドブル主催のエクストリームスポーツで活躍するF-1マシンや航空機などが展示されています。入場無料。併設のレストラン「イカルス」はミシュラン2つ星を獲得。www.hanger-7.com

ザルツブルク名物のビールを飲む!

ザルツブルクに最初の商業的なビール醸造所が生まれたのは今から600年前の14世紀末。1492年創業のシュティグルブロイと1621年創業のウグスティナー・ブロイが現在も営業を続けています。伝承された知識と技術が生むザルツブルクのビールをご堪能ください。



ミラベル庭園



レオポルトスクローン城

📍 文化の香りが漂う自然豊かな ザルツブルク

バロックの都、音楽の街ザルツブルクは年間を通じ4,500ものハイレベルな文化イベントを開催し、世界中の人々に感動を与えています。その中でも、国際的に最も重要なクラシック音楽と舞台芸術の祭典は間違いなくザルツブルク音楽祭でしょう。毎年夏になると、文字通り街全体がステージに変わ

ります。ドーム広場で上演されるホーフマンスタールの祝祭劇『イエーダーマン』は夏の風物詩です。世界中で熱狂的なファンを獲得したハリウッド映画『サウンド・オブ・ミュージック』は2025年に60周年を迎えます。ザルツブルクはこの映画の巡礼地として年間30万人以上が訪れています。ミラベル庭園からフェルゼンライトシューレ、レオポルトスクローン城など、街はロケ地で溢れています。

© (left and right): Tourismus Salzburg



© Tourismus Salzburg, foto: Bräutigam Center

www.salzburg.info/jp



街の魅力を満喫するには**ザルツブルクカード**がお勧めです。24時間、48時間、72時間の3種類があり、博物館など観光名所の入場無料、市内交通機関が乗り放題の他、多くの特典があり、大変便利でお得、しかも環境にやさしいカードです。オンラインで予約し旅行前に入手すれば、駅から町の中心まで行くバスから利用できて便利です。

2024年1/1~4/30、11/1~12/31	大人	子供(6~15歳)
24時間	€ 28.00	€ 14.00
48時間	€ 36.00	€ 18.00
72時間	€ 41.00	€ 20.50

2024年5/1~10/31	大人	子供(6~15歳)
24時間	€ 31.00	€ 15.50
48時間	€ 40.00	€ 20.00
72時間	€ 46.00	€ 23.00

ザルツブルク市観光局

Salzburg Information · 5020 Salzburg · Austria
Tel. +43/662/88987-0 · Fax +43/662/88987-32
tourist@salzburg.info

SALZBURG
Stage of the World



モントゼー湖を望む
ヒンメルスプフォルテンヒュッテ

ザルツブルクの郊外へ

オーストリア屈指の景観を誇るザルツカンマーグート、
国内最高峰グロースグロックナーへ。

ザルツカンマーグート

ザルツブルクの東に広がるザルツカンマーグートは、1,500～2,000m級の山々に抱かれた高原地帯に大小約50の湖が点在する景勝地です。映画『サウンド・オブ・ミュージック』に登場したことで、世界的に有名になりました。15世紀の古城（現在はホテル）が水面に映るフッシュルゼー湖。ヴォルフガングゼー湖には、モーツァルト縁の町サンクト・ギルゲンと、シャーフベルク登山鉄道の始発の町サンクト・ヴォルフガングがあります。『サウンド・オブ・ミュージック』の結婚式シーンが撮影されたモントゼー湖、温泉保養地バート・イッシュル、世界遺産のハルシュタットとダッハシュタイン地域、クリムトが夏を過ごしたアッターゼー湖も人気です。

アクセス：ザルツブルクからバート・イッシュルまでバスで約1時間30分。ここからサンクト・ヴォルフガングまではバスで約30分。列車

でバート・イッシュルやハルシュタットへ行く場合は、アットナング・ブッフハイムで乗り換え。

ヴェルフェン

11世紀後半～12世紀前半にザルツブルクの大司教が建てた堅牢なヴェルフェン城が山上に聳えています。近隣にある世界最大の氷穴も見どころです（見学は夏期のみ）。

アクセス：ザルツブルクから南へ約40km、列車で約40分。氷穴へはヴェルフェンの町中からバスとロープウェイ利用。

ツェル・アム・ゼー

周りを山々に囲まれたツェル湖畔の美しい町。グロースグロックナーに行く拠点ともなります。

アクセス：ザルツブルクから南へ約80km、列車で約1時間半。



グロースグロックナー・アルプス山岳道路の大パノラマ

ダイナミックな
山々を望むハイライト



皇帝も愛した息を呑むような景色 グロースグロックナー・ アルプス山岳道路

標高3,798mのグロースグロックナー山は、オーストリアの最高峰です。一帯はホーエ・タウエルン国立公園に指定され、峰々と氷河、滝、森林が雄大な景観を造っています。1856年、皇帝フランツ・ヨーゼフ1世と皇妃エリザベートもここを訪れ、2時間以上も留まってパステルツェ氷河とグロースグロックナーの偉容を楽しみました。運が良ければ、アイベックスやカモシカ、マーモットといった高山動物にも出会えます。

全長48kmでザルツブルク州のブルックとケルンテン州のハイリゲンブルートを結ぶ「グロースグロック

ナー・アルプス山岳道路」は、雄大な自然を車窓から楽しむための観光専用道路です。国立公園の中心を通過して海拔2,571mに達し、オーストリア最高峰の麓を辿ってパステルツェ氷河に至ります。標高2,369mの展望台「フランツ・ヨーゼフス・ヘーエ」からは、グロースグロックナー山の斜面と氷河、それを取り囲む3,000m級の峰々が一望できます。展望台センターにはレストランや展示室もあります。

山岳道路の走行にはレンタカー、またはツェル・アム・ゼーなどから出ている観光バス「グロックナーバス」が便利です(毎年5月末～9月下旬の水曜、7・8月の水・金運行)。



パステルツェ氷河と
フランツ・ヨーゼフス・ヘーエ

グロースグロックナー・
アルプス山岳道路
Grossglockner
Hochalpenstrassen AG
www.grossglockner.at



市庁舎前広場の「ロング・テーブル・オブ・グラーツ」



王宮の二重らせん階段

グラーツの見どころ

オーストリア第2の都市で、美食の街。
旧市街とエッゲンベルク宮殿は世界遺産。

ウィーンから南へ列車で約2時間半。赤い瓦屋根の連なる旧市街は、中世のたたずまいを色濃く残す一方、ハットするようなモダンな建物も多くあります。

シュロスベルク

13世紀の時計塔が立つ小高い山で、かつて外敵を防ぐ城塞がありました。ナポレオンさえ攻略を諦めた、史上最も堅固な城塞としてギネスブックに載っています。一見普通に見える時計塔は、長針と短針の位置に注目。頂上からは旧市街が見渡せ、カフェ・レストランもあります。

MAP P.44 A-1

州立武器庫（武器博物館）

オスマン軍の襲撃に対抗するための武器の常備庫。1551年以來の鎧や鉄砲など3万点以上が保管され、今でもすぐに使えるほど整備されています。冬期休館。

MAP P.44 B-1,2

大聖堂（ドーム）

ハプスブルク家の皇帝フリードリヒ3世が1438年～1464年に造らせた王宮用教会。南壁には小さな張り出し屋根で保護された『苦難の絵』があり、1480年にシュタイヤマルクを襲ったペスト、オスマン軍、イナゴの大群という三つの苦難を表現しています。

MAP P.44 B-2

王宮

15世紀に皇帝フリードリヒ3世が建て、後に息子のマキシミアン1世が後期ゴシック様式に改修しました。主要部分は19世紀に撤去され、現在は州知事官邸です。最初の中庭を抜けた第3棟の脇には、1499年に造られたゴシック末期の石工芸術の傑作「二重らせん階段」があり、分かれては合流することから「和解の階段」と呼ばれています。

MAP P.44 A-2

霊廟 (マウソレウム)

オーストリアの覇者としてグラーツに滞在した皇帝フェルディナント2世の霊廟。イタリアの宮廷御用画家であったジョヴァンニ・ピエトロ・デ・ポミスの設計。

MAP P.44 B-2

中央広場と市庁舎

中央広場にある噴水は「シュタイヤマルク王子」と慕われたヨハン大公を追悼するために1878年に造られました。丸屋根、時計、角型の塔が特徴的な市庁舎は19世紀末の建築。クリスマス時期はプロジェクションマッピングが投影されます。

MAP P.44 B-1

歴史的広場と ロマンティックな小路

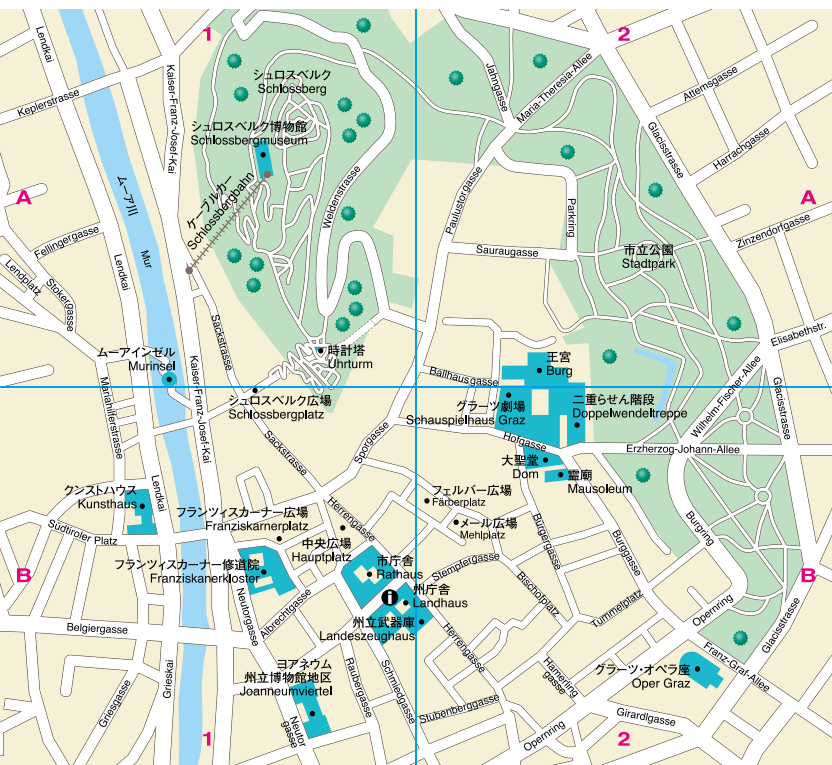
市庁舎が建つ中央広場、肉屋が多いフランツィスカーナー広場、カフェが並ぶメル広場、伝統と現代文化が融合したフェルバー広場、イベントで賑わうシュロスベルク広場。ヘレンガッセやシュポールガッセにはブティックが、ザックガッセに美術工芸専門店が並びます。

MAP P.44 B-1,2

州庁舎

北イタリアの宮殿様式の州庁舎は、支柱の下方に見られる彫刻と、豪華な回廊をもつルネッサンス様式の中庭が特徴。

MAP P.44 B-1,2





クンストハウス グラーツ



名産品「パンpinkシードオイル」

クンストハウス グラーツ

宇宙船のような姿の現代博物館で、2003年に完成。触手のような部分と、シュロスベルクの古い時計台が呼応している、という人も。「フレンドリーなエイリアン」の愛称で親しまれています。夜のライトアップも一見の価値あり。

MAP P.44 A-1

ムーアインゼル

グラーツ市内を流れるムーア川に、「川辺に浮かぶ貝」をモチーフに造られた文化施設。内部にはカフェと半円形劇場があります。ムーア川の沿岸は遊歩道に整備されており、散歩にぴったり。

MAP P.44 A-1

ファーマーズ・マーケット

グラーツがあるシュタイヤマルク州は、国内有数の農作地。毎朝どこかでファーマーズ・マーケットが開かれ、生産者が採りたての作物を並べます。グラーツ・オペラ座の裏手にあるカイザー・ヨーゼフ広場やレント広場のマーケットがオススメ（月～土6:00～13:00）。特にオススメのお土産は、シュタイヤマルク州のブランド生産物であり「黒い黄金」とも呼ばれるパンpinkシードオイル。炒ったカボチ

ヤの種から抽出した香ばしいオイルで、サラダやスープ、パニラアイスにかけて食べると非常に美味です。健康食品としても注目を浴びています。

エッゲンベルク宮殿

ハンス・ウルリッヒ・フォン・エッゲンベルク公が1625年～1635年にかけて建てた宮殿。当時最新の宇宙観を導入し、例えば外窓は365（1年365日）、門は12（1年12ヶ月）、各階の部屋は31（1ヶ月31日）あります。豊臣期の大坂城研究に多大な役割を果たした日本の屏風絵も必見です。市内から市電1番で約15分。一部冬期休館。

グラーツの美食イベント

シュタイヤマルク州の肥沃な土壌で育つ農作物が集まる州都グラーツは、グルメの街として有名です。市庁舎前広場に巨大なダイニングテーブルが並ぶ「ロング・テーブル・オブ・グラーツ（8月）」をはじめ、ロゼワイン祭り（6月）、フードフェスティバル（6～7月）、トリュフ祭り（10月）などの美食イベントが通年開催されています。詳しくはグラーツ市観光局（Graz Tourismus）の公式サイトをご覧ください。



グラーツの街を見下ろす
シュロスベルクのレストラン

シュロスベルクの時計塔



人と環境にやさしい 美食の街、グラーツ

緑のシュタイヤマルクの州都、グラーツは活動的なライフスタイル、魅力的な見どころ、印象的な建築物、アートスペース、トレンドなフェスティバル、流行のデザインショップ、食通の好みに応える多数のバーやレストランなど、訪れるすべての人々の心を掴んで放しません。

文化都市グラーツは美食で有名。その理由は、シュタイヤマルク州の肥沃な土壌で育つ農産物が集まってくるからです。レストランでは郷土の食材を使った美味しいメニューが用意され、毎朝市内各所で開かれるファーマーズ・マーケットでは地元の食に親しめます。そして毎年8月恒例の一大グルメイ

ベント「ロング・テーブル・オブ・グラーツ」や各種グルメツアーでは食の喜びを満喫できます。

サステナブルなライフスタイルが大切にされる今日、グラーツは長年にわたって持続可能性に取り組んできました。クールで公正に生産されたファッション、中古品やヴィンテージの服や雑貨を扱うショップ、持参した買い物かごでショッピングするファーマーズ・マーケット、パッケージフリーの商品、再利用可能なデポジットカップ、市内中心部を走るトラムは無料… 持続可能性は街中で実現されています。天気の良い日は、シュロスベルクやエッゲンベルク城公園でピクニックをし、都市の自然に親しんでください。

グラーツ市観光局
Graz Tourismus
Herrngasse 16, A-8010 Graz
info@graztourismus.at
www.visitgraz.com



レント広場の
マーケット



南シュタイヤマルクのワイン街道

グラーツの 郊外へ

州都をグラーツに置くシュタイヤマルク州は、その豊かな森から「緑の州」と呼ばれています。

南シュタイヤマルクの ワイン街道

スロヴェニアと国境を接する南シュタイヤマルク地域はワインの名産地。エーレンハウゼンとロイチヤツハ間の約25kmはこの地域最大のブドウ栽培地域で、「ワイン街道」と呼ばれる観光地になっています。ワイン街道では、ブッシュェンシャンクと呼ばれるワイン生産者の直営店を訪れるのが楽しみです。例えば、築300年の家屋を改築したワイナリー「ケーグル」は、居酒屋と宿泊施設を併設しています。ワイン樽の間で寝られるユニークな客室も。「ワイン街道」へは、グラーツから観光バスが出ています。

ローグナー バート・ブルマウ

環境との共生を掲げたオーストリアの芸術家、フリーデンスライヒ・

フンデルトヴァッサーが設計した温泉ホテル。カラフルなファサードと黄金の丸屋根は、まさに「住める彫刻」。フンデルトヴァッサーらしい自由な造形や流れる曲線、虹の色彩が、見事に自然と調和しています。ヘルス&ウェルネスセットをはじめ、医学療法、各種スポーツやイベント、ヨガ、子ども用プログラム等を提供しています。グラーツから送迎バスがあります(5泊以上する場合、無料)。

白馬リピッツァーの里 ピーバー

ウィーン王宮にあるスペイン式宮廷馬術学校の白馬「リピッツァー種」が初期訓練を受ける牧場が、グラーツ近郊のピーバーにあります。美しい白馬に最も近づけるスポットです。



宮廷教会

旧市街と黄金の小屋根



インスブルックの見どころ

中世の面影をたたえる、
ハプスブルクの古都。
隣接する山々は、夏はハイキング、
冬はウインタースポーツの聖地。

美しいアルプスの山々に囲まれた、チロル州の州都。ハプスブルク帝国時代には「陰の首都」と呼ばれ、ウィーンに次ぐ中心地として栄えました。

黄金の小屋根

ハプスブルク家の黄金時代を築いた皇帝マキシミリアン1世が広場で行われる祭事を見物するために建てた後期ゴシック様式の張り出しテラス。名称は金箔を貼った2,657枚の瓦に由来します。欄干は砂岩のレリーフ、壁はフレスコ画が彩り、内部にはマキシミリアン1世の博物館があります。

MAP P.49 A-1

ホーフブルク王宮

ハプスブルク家の2つ目の王宮。ウィーン以外に「ホーフブルク」と称される唯一の王宮です。ジークムント大公が1460年に創建し、その後マリア・テレジアが改築しました。華麗なシャンデリアや天井画で飾られた大広間が見どころ。

MAP P.49 A-1

凱旋門

1765年、後の皇帝レオポルト2世とマリア・ルドヴィカの婚礼を記念して建てられた凱旋門。しかし喜ばしい祝典の最中、父でありマリア・テレジアの夫である皇帝フランツ・シュテファン・フォン・ロートリングゲンが急逝。このため凱旋門の片側には婚礼の場面、もう片側には皇帝の死を悼む場面が描かれています。

MAP P.49 B-1

宮廷教会

マキシミリアン1世の像が置かれた棺と28体のブロンズ像が圧巻。デューラーのデザインしたアーサー王の像や、チロルの英雄アンドレアス・ホーファーの墓も。チロル民族博物館に隣接。

MAP P.49 A-2

ベルクイーゼル・ジャンプ台

W杯が開催されるスキージャンプ台。ザハ・ハディドがデザイン。展望テラスとカフェからは屏風のようなアルプスの山々を望めます。通年営業。

アクセス：市内からベルクイーゼル行きの市電1番で15分

ノルトケッテンバーン

市の北側に聳えるノルトケッテン(2,300m)に登るケーブルカー。所要時間は約30分(フンガールク駅でロープウェイに乗り換え)。頂上からはチロルの400以上の峰と、天気が良ければグロースグロックナーまで眺望できます。モダンな駅舎はザハ・ハディドのデザインです。

アンブラス城

市の南東にあり、16世紀にチロルの大公フェルディナント2世が平民出身の愛妻フィリピーネ・ウェルザーのために建てた白亜の城。併設の博物館ではフェルディナント2世の代から伝わるハプスブルク家の美術品を展示しています。アクセス：サイトシーアバス利用が便利。





アルプバッハタールでの
ハイキング

インスブルックの郊外へ

牧歌的な山の景色で知られるチロル州。
アルプスの溪谷美と素朴な人々が待つ、愛らしい村々へ。

絵本の世界のような風景がどこまでも広がるチロル州。インスブルックを拠点に、ローカル列車やポストバスを使って、美しい溪谷や村を日帰りで見学してみましょう。

アルプバッハ：典型的なチロルの村。木造の家々を飾る花いっぱいのテラスと緑の森は、まるで絵葉書のような美しさです。

ゼーフェルト：インスブルックにほど近く、三方を山に囲まれた標高1,180mのリゾート。駅前からまっすぐに伸びる並木道は、絵画のように美しく牧歌的。

キッツビュール：中世の面影を色濃く残す旧市街地に古風な家々が並び、古い城門がノスタルジーを誘います。冬はスキー、夏はハイキングが盛ん。北に標高1,998mのキッツビューラーホルン、南に標高1,650mのハーネンカムがそびえています。

シュトゥーバイタール：インスブルックに近い、チロル屈指の美しい谷。中心地はノイシュティフト。谷の最奥シュトゥバイヤーグレッチャーでは一年中氷河スキーを楽しめます。

サント・アントン：アルペンスキーの発祥地であり、世界中のスキーヤー憧れの町。スキー博物館もあります。夏はハイキングや登山が人気で、お花畑をめぐるコースがオススメです。

エッツタール：氷河に深く削られたエッツタール溪谷。セルデンから3,056mのガイスラッハ・コーゲルに上ると、チロル州最高峰のヴィルトシュピツエをはじめ、氷河の山々を眺めることができます。また、最奥地のホーエムート展望台からは、雄大な山岳と大氷河を一望できます。

旅に役立つ基本情報

商店の営業時間

商店は一般的に、月曜日から金曜日は9時～18時(店により8時から)、土曜日は17時まで営業しています。ウィーンのショッピングセンター等は、平日20時まで開いています。業種や季節により営業時間は変更され、特にリゾート地のハイシーズンは時間が延長されることもあります。日曜日や祝祭日は基本的に休業しますが、ミュージアムショップ、駅や空港のスーパー、土産店はオープンしています。

ウィーン及びオーストリア各地を快適なレイルジェットが結んでいます。近年、「ナイトジェット」も増えています。

自動車：オーストリアのアウトバーン及びその他の高速道路網は極めて良く整備されており、気ままな個人旅行には最適の交通手段です。高速道路は有料のため、利用にはヴィニエツト(ステッカー)が必要です。キオスク、ガソリンスタンドでも購入できます。

www.vignette.at

オーストリアの免税システム

オーストリアでの買物には付加価値税(MwSt.)が含まれていますが、条件を満たした外国の旅行者には、税金を免除する特典があります。通常、商品価格の約13%が払い戻されます。

オーストリア政府観光局公式チャンネル

 **ウェブサイト**
austria.info


各地の情報ははじめ、全国のご案内、イベントの紹介や有益なアドバイス、楽しい話題も豊富です。

 **Facebook**
[@feelaustriaJP](https://www.facebook.com/feelaustriaJP)

 **X**
[@ANTO_Tokyo](https://twitter.com/ANTO_Tokyo)

オーストリア関係の楽しい情報や、オーストリアの美しい写真を発信しています。

 **YouTube**
www.youtube.com/austria
躍動するオーストリアのハイライトをビデオでご覧ください。

 **メールニュース**
オーストリアニュースレター
オーストリア政府観光局では毎月一回、無料のニュースレターにて最新の観光トピックや日本におけるイベント等の情報を発信しています。不定期でプレゼントが当たる抽選もあります。ご登録は右QRコードか、以下のウェブサイトです。



<https://austria.info/jp/Newsletter>

オーストリアへのアクセス

飛行機：日本からの直行便は、オーストリア航空とANAが就航しています。詳しいスケジュールは各社のウェブサイトをご覧ください。また、従来の国内線に代わり、オーストリア航空とオーストリア連邦鉄道ÖBBが協力して運行する、環境にやさしい「エアレイルAIRail」は、ザルツブルク/リンツ/グラーツ～ウィーン空港間を結んでいます。ウィーン国際空港シュヴェツヒャートの他、グラーツ、ザルツブルク、インスブルック、リンツ、クラゲンフルトの6都市に空港があります。

鉄道：鉄道網は充実しています。隣接するオーストリア周辺諸国と、

オーストリアの 持続可能な休暇のスタイル

サステナブル・ツーリズム（持続可能な観光）が提唱される現在、観光の大衆化による環境や文化への負荷、過度な商業化を避けて観光地本来の姿を求めていこうとする考え方が進んでいます。

オーストリアは世界で最も成功している観光地の一つです。このオーストリアで過ごす「持続可能な休暇」とは、一体どんな意味なのでしょう？ それは、貴重な資源を大切に利用し、オーストリアの

ずば抜けて質の高い生活を次世代も体験できるように配慮して自然を楽しむことといえます。

オーストリアの国立公園で生態学的な多様性を知ったり、エコホテルに宿泊したり、CO₂を排出しない交通手段で移動したり、ビオレストランでオーガニック料理を味わうなどして、オーストリア式のサステナブル・ツーリズムを体験してみたいかがでしょうか。



グルンドルゼー湖
(シュタイヤマルク州)